

二〇一七年八月二五日

山壁の深きより霧たちのぼる
自家製といふ牧場の氷菓食ぶ
秋日影水面にゆらぐ金閣寺
大施餓鬼禿頭青き僧集ふ
幾橋をくぐり流灯進みけり
峰寺へ雲と見紛ふ霧走る

よう子
菜々
ともえ
なつき
さつき
明日香

二〇一七年八月二四日

峰寺の秘仏に見ゆ堂涼し
山頂の紫陽花未だ色褪せず
名水の新豆腐とて家苞に
苔乾ききつたる処暑の百度石
阿波踊り地を這ふ如く進みけり

小袖
こすもす
やよい
なつき
たか子

二〇一七年八月二三日

山泊まり闇の深さに銀河濃し
驟雨きて早瀬高鳴る峽の宿
かなかなや摩耶天上寺下山道
画架たつる豆画伯らに牧は秋
蝉しぐれケーブルカーは山頂へ

宏虎
やよい
よう子
菜々
はく子

二〇一七年八月二三日

牧涼し羊に道をゆずりけり
万緑を貫きケーブルカーのぼる
展望の一湾囲む雲の峰
ひたすらに草食む羊秋高し

小袖
はく子
明日香
よう子

二〇一七年八月二二日

南座の屋根よりクレーン秋暑し
道問えばイヤホン外し爽やかに
新涼や御朱印帳の墨の濃さ

満天
たか子
ぽんこ

二〇一七年八月二〇日

フロントのお国訛りや避暑ホテル
宿下駄で外湯巡りす星月夜

こすもす
宏虎

二〇一七年八月一九日

受話器越しなるふるさとの法師蝉
喉元へまろぶ真清水涼新た
と見る間に峽空占むる羊雲

やよい
菜々
菜々

毎日句会みのる選・二〇一七年八月二八日